



東京2020大会のレガシーを引き継ぎ 新たなステップへ



2022年が明けました。昨年の東京2020大会はコロナ禍で、1年延期・原則無観客で開催されました。選手の必死に頑張る姿、特にパラリンピック選手の諦めずに挑戦し続ける姿は、多くの感動とパラスポーツへの関心を生み、多様性と調和という大会ビジョンの1つとして深く心に残るものとなりました。

また大会を支えたボランティアにも多くの賞賛の声が寄せられ、それら

の活動を引き継ぐ東京ボランティアレガシーネットワークが立ち上がりました。

東京2020大会から学んだこと、そのレガシーを引き継ぎ、区では今後ともスポーツの振興を図ってまいります。

☎オリンピック・パラリンピック推進課

☎5722-9361 FAX 5722-9754

東京2020大会パラリンピック閉会式 写真提供：フォートキシモト

東京2020パラリンピック競技大会をふり返って

解説者として・パラリンピアンとして



国立競技場NHK放送ブースで

大西瞳さんは2016年リオデジャネイロパラリンピック競技大会に日本代表として陸上競技に出場し入賞、また世界選手権3大会入賞と輝かしい実績を残しています。義足のランナーとして注目を集めNHK Eテレ「バリバラ～障害者情報バラエティー～」にも出

演するなど多方面に活躍しています。

東京2020大会では、NHKテレビでパラリンピック競技のゲスト解説者も務めました。そこでパラリンピアンから見た東京2020大会、競技解説者から見た東京2020大会を語っていただきました。

大西 瞳さん
(区内在勤)

- 2011年 IWA S 世界大会100m 2位、200m 1位
- 2013年 世界選手権リヨン大会100m 4位、走幅跳 5位
- 2015年 世界選手権ドーハ大会100m 8位、走幅跳 6位
- 2016年 リオデジャネイロパラリンピック大会100m 8位、走幅跳 6位
- 2017年 世界選手権ロンドン大会100m 7位、走幅跳 4位

東京2020パラリンピック競技大会では、競技中継のゲストや解説者として携わりました。陸上以外の競技をじっくりと観戦したのは初めてで、どの競技もレベルが高く、ワクワクが止まりませんでした。

パラスポーツの魅力の1つは、「工夫」です。選手はさまざまな工夫を凝らして競技に挑んでいます。競泳で両腕が使えない選手が、タオルを口にくわえスタートの姿勢を保つ。車いすバスケットボールでは、障害の軽い選手ばかりでなく障害の重い選手も含めたチーム編成になっています。また競技のルールさえも変えてしまうこともありま

す。出来なければあれこれ工夫し「出来る」にしてしまう。「そんな方法があったのか！」これがパラスポーツの面白さです。

日本選手団が大活躍した東京2020パラリンピック競技大会でしたが、障害があることでスポーツを気軽に楽しめないかた、多くのことを諦めているかたが、まだまだたくさんいます。1つでも「出来る」を増やすにはどうしたらいいのか…こんなことを考えるのも東京2020パラリンピック競技大会のレガシーかもしれません。



世界選手権ドーハ大会